



相ノ木っ子だより

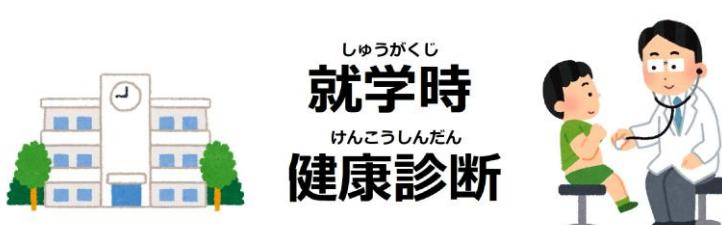


令和7年度
11月号
上市町立
相ノ木小学校

熊の出没情報



秋になって、熊の目撃情報や被害の情報が頻繁に聞かれるようになってきました。熊が目撃されたり糞が落ちていたり、人が襲われたりという情報がよく聞かれます。幸い、相ノ木小学校の校区では、そういう情報は聞かれませんが、上市町でも山手の方ではよく見つかっているようです。そのため、5年生、6年生のふるさと学習も活動の変更を余儀なくされました。5年生の穴の谷の靈水の見学は、現地ではなく白萩西部小学校で話を聞き、現地でもバスを降りずにバス内からの見学となりました。6年生は午前中、地層の見学を予定していたのですが、こちらは近くに大きな蜂の巣ができていて、バスからは降りたのですが、遠くからの観察となりました。午後からの下田村の見学は、現地へ行かずに下田ふるさとの会の方々に学校に来ていただいて説明を聞きました。実際に現地へ行くことはできなかったのですが、ふるさとの会の方が、たくさんの資料を持ってきてくださって丁寧に説明をしてくださったのが救いでした。熊も生きていかなければならないのは分かりますが、できれば以前のように人間との棲み分けがきちんとできていればよいのだと思います。火事や地震、不審者の避難訓練は昔からよく学校で行っていますが、もしかすると地域によっては、熊の対応訓練もこれからは必要になってくるのかもしれません。私の家の近所でも川沿いに熊の目撃情報がありました。近くの小学校は、外での活動をしばらく控えていました。家では「犬の散歩にも気をつけて」と言われていますが、一体何をどう気をつければよいのでしょうか。とにかく出会うことのないよう祈るしかないのかもしれません。出会わないようにするには、熊鈴や熊スプレーを携帯するとよいそうです。もし出会ってしまっても、背中を見せて走って逃げると、余計に追いかけてくるそうなので、目をそらさずに静かに後ずさりして距離をとるのがよいそうです。温暖化の影響か、熊も冬眠しなくなっているそうで、熊の出没はまだしばらく続きそうです。当分の間は、熊にも注意が必要ですね。



10月17日に就学時健康診断があり、来年度入学予定のかわいらしい14名の子供たちが保護者の方と元気に来校しました。子供たちは、校内を回って、いろいろな健康診断や検査を受けますが、家の方と離れてやや心細くなっている子や逆に元気過ぎる子等、様々な様子が見られます。そんな健診中の子供たちをお世話するのが、来年度6年生となる今の5年生です。校医さんの到着状況に合わせて臨機応変に健診箇所を巡ったり、来入児が円滑に健診できるようサポートしたりと、一人一人自分の役割に応じて活躍しました。健診後も子供たちが楽しめるよう折り紙やぬり絵等を一緒に行うなど、やさしく交流していました。この仕事は、もちろん大切な学校行事のお手伝いなのですが、同時に5年生の総合的な学習の時間「あったかハート相ノ木」の一環でもあります。来入児とどんな交流ができるか、どのように接したらよいのかを自分たちで考えた上での実践です。健診前にも相ノ木保育園を訪問し、来入児と交流をしてきたこともあって、5年生も楽しみにしていました。今回も、元気な子供たちを相手に苦労した面もあったと思いますが、こういうお世話を体験することで、これまでの小学校での行事で得た達成感とは、また違った思いを抱くことができたのではないかと思います。

カーリングペアレント



「モンスターペアレント」という言葉が、一時期、よく聞かれました。「うちの子を発表会の主役にしてほしい」「うちの子が風邪をひいたので運動会を延期してほしい」等、学校に理不尽な要求を突きつけてくる親のことだと言われています。それでは、「カーリングペアレント」という言葉を聞いたことがありますか？ 10月27日付の新聞に掲載されていて、私も初めて知りました。デンマーク発祥のようで、最近、子育ての場で耳にすることが増えた言葉で、「子供の行く先を先回りして道をならし（ブラシをかけ）狙った位置に子供を向かわせる親」のことだそうです。

これまでも「過保護」という言葉がありましたが、このカーリングペアレントとは、ただ甘やかすだけではなく「過保護+過干渉+過管理」というイメージだそうです。このような行動をとる理由として5つ挙げられていました。①心配性から先回りして手を打とうとする傾向が強い、②育児情報による不安の増加、③子供の行動を通した親自身の周囲からの評価、④親が代わりにした方が面倒が少ない、⑤理想の子供像の強要です。この背景として、日本の女性が生涯に子供を産む数「合計特殊出産率」の低下が挙げられていました。2024年は1.15人だそうで、ほぼ一人となり、少ない子供への期待値の高まりと、子育て経験値の不足が理由なのではないかということでした。

このような親の過度な関わりは、逆に子供の失敗する経験や権利を奪っているとも言えるでしょう。失敗して学ぶこともたくさんあるはずなのに、それをしないで大人になってしまい、いい年齢になった大人が親に助けられているのは、その人にとって不幸なことなのかもしれません。最初から何でもできる子供はいませんから、ある段階までは大人の手助けが必要です。ただ、個人差はあるにしろ、その子供の様子を見ながら徐々に手を離し、いざれは一人で何でもできるようにしていくことが、大人の役割なのではないでしょうか。

よく聞かれる「子育て四訓」に「乳児は肌を離すな、幼児は手を離すな、少年は目を離すな、青年は心を離すな」という言葉があります。子供にあえて失敗をさせる必要はないかもしれません、失敗を経験することで、優しくなれたり他人の痛みが分かたりする、心豊かな人になれるように思います。子供は失敗するものです。ただ、周りの大人は、失敗しないようにいろいろなことを事前に教えること、そして失敗したらその原因を整理して、同じ失敗を繰り返さないようにして関わっていくことが大切なではないでしょうか。



行事予定(11月中旬～12月中旬)



11月17日（月）	振替休業日
19日（水）	1、2年生水泳教室
23日（日）	祝勤労感謝の日
24日（月）	振替休日
25日（火）	上市中説明会（6年保護者）
27日（木）	3年生校外学習 (上市消防署)
28日（金）	3、4年生水泳教室



12月 1日（月）	PTA幹部会
3日（水）	放課後子ども教室
12日（金）	全校5限後下校 14:30
16日（火）～18日（木）	個別懇談会
19日（金）	全校5限後下校 14:30
22日（月）	全校5限後下校 14:00
23日（火）	地区児童会 集団下校 14:20
24日（水）	第2学期終業式